

実践事例発表報告

実践事例発表まとめ

実践事例発表では、5名の方に発表をいただきました。発表をいただいたどの取組みも参考になる部分があり、取組みから生まれる様々な「つながり」の中に、関わる人の笑顔を想像することができました。今回の大会テーマである「図書館の楽しみ」を、まさに実践されている事例発表でした。

「学校の図書館にある楽しみ 自由な場所『図書館』にある遊びと余裕」

松本市立大野川小・中学校 学校司書 筒木千聖

図書館ってどんなところ？と聞いたら子ども達の回答が図書館に対して「できること」ではなく「こうしなければならない」という制約を感じる回答や表情が多く見られた。

図書館は「ルールに守られた自由な場所 楽しいが詰まった素敵な場所」である。ルールとは、貸出冊数や期限などの共通ルールの他に、だれかが悲しいきもちになることはしないということ。

【目指す形】

「フリーダム（何をやってもいい事由）ではなく
リベラル（自分たちで考え、創り上げた自由）
な楽しい場所！」

【理想の図書館を目指した実践事例】

- ・ビブリオバトル
- ・館内装飾作り
- ・図書館ポスト
- ・おはなしの箱
- ・本の福袋



「本の楽しさを味わい、中央図書館の魅力を全校に伝える取組み」

松本市立開智小学校 4年3組担任 秋山恵

「総合的な学習の時間 中央図書館へLet's go！」探究的な活動を通して

クラスの3分の1は中央図書館を利用したことがなかったが、活動を通して実際に行ってみると、本の多さ・並び方・検索機・畳の部屋・書庫・学習スペースなど多くの発見があった。

全校や地域の人に伝え、もっと利用者を増やしたい！という取組みを開始した。

【具体的な活動】

- ・アンケートチーム
- ・中央図書館の魅力を伝えるチーム
- ・おすすめ本紹介チーム
- ・小説チーム
- ・漫画・キャラクターチーム
- ・絵本読み聞かせチーム

公共図書館と学校の連携により、探究的な活動の広がり、教科横断的な多くの学びがあった。

学校と地域の図書館との連携のさらなる可能性を探っていきたい。



「今日は何の日 図書館カレンダーをつくろう」

松本市立高綱中学校 司書教諭 津田加奈 学校司書 阪西 歩

図書館カレンダーは、日付にまつわる記念日と本に関連する情報を紹介するカレンダーで、1ページにつき1冊の本を紹介するもの。日付があるので日めくりカレンダーとしても使用できる。
⇒バラバラなものが一つの作品になり財産になる。図書館カレンダーの見本を先生が作成し、イメージを明確にして学習をスタートさせることができた。

【单元展開】

- 第1次 自分のテーマを決める
- 第2次 情報収集
- 第3次 情報の選択
- 第4次 完成したカレンダーを読みあう

【成果】

- ・司書の先生が毎時間一緒に授業を進めることで、助言を受けながら活動することができた。
- ・多くの本に触れることができた。 など
→今後カレンダーの図書館掲示、昼の放送で紹介していく。
- ・自分の興味を広げる
- ・調べる楽しさを味わう
- ・新しい発見を得られる
そんな図書館カレンダーを継続して作っていききたい。



「松本市の子ども読書活動推進について ～サードブック事業を中心に～」

学都松本子ども読書活動推進委員会 委員長 豊嶋さおり

松本市には18歳以下の人口が3万7千人いる。

- ・H13より全国に先駆けてブックスタート事業開始
絵本の他に図書館で作成した冊子「こんにちはえほん」を併せて配布（55冊の絵本を掲載）
- ・H19よりセカンドブック事業開始
事前配布チラシに掲載の12冊の中から1冊選んでもらう。
図書館作成の冊子「なかよしえほん」を併せて配付（65冊の絵本を掲載）
- ・R5サードブック事業開始 学級文庫方式
新一年生向けに35冊程度の学級文庫（A～Cセット）として配置。読み聞かせもセットでお届けした。
ちょっとした時間に手に取って見られると好評。

本の選書は選定作業部会3回で行った。公共図書館（児童サービス委員）、子ども読書活動推進委員会委員、学校司書が参加している。

この事業では家庭への1冊配付と比べて、1年間子どもたちがたくさんの本に親しむ意欲や関心を育て、読書環境の充実へ寄与するものと期待している。



「本&心をまわす『信州須坂どこでも図書館』」
市立須坂図書館 館長 文平玲子

H25に図書館のないところでも本に親しめるように「信州須坂どこでも図書館」がスタート。開始して「除籍本だけでは魅力がない」「職員が整備にまわるのが困難」「本があっても子どもだけではお店に入れない・本だけを目当てにお店に入りづらい」などの課題に直面した。

⇒見つけた答え

- ・本をお店の雰囲気づくりに役立つものとした
- ・まず図書館とお店が繋がることを大切にしたい

⇒お店の方が図書館に来てくれるようになった

「どこでも図書館」は「須坂図書館の代わり」でなく、本が好きな人同士を繋げ、また図書館に繋げてくれるものだとわかった。

【ブックリサイクル市との連動】

365日リサイクル本を配布可能にし、最優先で「どこでも図書館」の参加者に配布することにした。「どこでも図書館」に良さそうな本をピックアップして倉庫のとなりに設置。⇒来館していただく事前配布

【リサイクルからアップサイクルへ】

- ・リサイクルされた本がインテリアとして活躍している
- ・10年間のあゆみがあり、現在市内に66枚の「どこでも図書館」の看板がある



来年度は図書館大会の会場。いつでも何度でもお越しください。

アンケート結果では下記のような声が寄せられました（一部抜粋）

- ・それぞれの工夫や取り組みがとても参考になりました。取り入れられるところを自校でも取り入れていきたいです。
- ・一人ひとりの発表時間が短く、質疑応答の時間も短いため、詳細をうかがうことが難しいと感じた。
- ・①大野川小中学校→おはなしの箱のアイデアが面白く、参考にしたいと思った。
- ・②開智小学校→中央図書館のよさを子どもの目線でアピールしていてよい取り組みだと感心した。
- ・③高綱中学校→今日は何の日、カレンダーは大変興味深く、本好きでなくとも知識を深める体験につながり、読者へのきっかけになると感じた。
- ・④子ども読書活動推進委員会～サードブックの活動発表→本を手渡す方法に工夫があり、選書のご苦労や実現までの道のりに思いを馳せると頭が下がる思いだった。人の手から差し出すことで温かい気持ちになると感じた。とてもよい活動を応援したい。
- ・⑤須坂市図書館→地域に飛び出し、人と本をつなぐ取り組みが新鮮だった。イベントを控えてのご参加お疲れ様でした。
- ・中学校図書館の積み上げてきた実績など素晴らしいと思いました。個人的にはファーストブックの1回目の時に長男が、セカンドブックの1回目の時に次男が頂いているので、懐かしく思い出しました。
- ・図書館カレンダーの制作など、参考になる事例がたくさんありました。
- ・学級で公共図書館に働きかける取り組みが良いと感じました。

※アンケート回答期間 10.28（土）～11.15（水）

※回答者数 137名（松本市音楽文化ホール79名 県立長野図書館58名）